

大道芸イキイキ空間

高田佳子著

学芸出版社 B6判

二五三頁 二〇六〇円

都市に暮らすことには、様々な功罪がある。

「まちづくり」が求められているのである。

政治・経済・文化などあらゆる面で情報が集積し、多くの活動の機会を見出すことができる。また、都市独特の「雑踏の中

の孤独」とでも言える他に干渉しない生活様式の中で、個人の自由を満喫することもできる。

一方、都市の空間は、産業活動の拠点としての側面が重視され、いかに効率よく機能するかが追及されることとなり、日常生活の空間も効率性という視点から規定されがちとなる。

これらの諸要素を考慮しつつ、都市を住民にとってより暮らしやすく、魅力的なものにしていくために、総合的な観点からの

「まちづくり」が求められているのである。

さて、近年、「まちづくり」という言葉は、地方自治体の基本的施策として様々な場で語られている。しかし、多くの場合、その基礎的要素としては、都市計画の基盤整備、建築物の配置・デザイン、景観などの面に片寄りがちである。魅力的なまちをつくるためには、これらハードの側面以上に、そこにどんな人間がいて、そこでどんなことが為されるか、というソフトの面が重要であろう。そんなことを考えるヒントとなるのが本書『大道芸イキイキ空間』である。

著者は、博覧会やイベントの施設設計に携わりながら、「大道芸」の魅力に取り付かれ、海外の多くの都市での大道芸人達の活動を回り、ついには、自ら大道芸人を海外から招へいしてイベントを企画・運営することまでしてしまうのである。海外での多くの体験から、著者は「大道芸人のいる空間は必ず魅力的」であるという仮説をたて、さらに「魅力的な空間を作り出すためには、魅力的なパフォーマンスを連れてくれば良い」との考えからイベントを実施していくのである。

本書では、兵庫県尼崎市での「つかしん」という商業施設で、ヨーロッパから大道芸人を招へいしてパフォーマンスを行い、この街の魅力を高めようという実験とその失敗の例や海外の多くの再開発地でパフォーマンスが活躍することによってその街の魅力を高めている例、わが国各都市での大道芸人を活用した街の活性化策―当然のことながら、

野毛の「大道芸ふえすていばる」についても触れられている。さらにパフォーマンスと呼ぶ際のノウハウまで紹介されている。著者のざん新な発想と行動力を背景とした記述は説得力のあるものとなっている。

さて、本市では、都市計画局を中心として、「まちづくり」については先駆的な実績がある。その中で、今後さらに充実させていくべき分野としては、ここで述べられているような街づくりのなかでのソフト展開である。

しかも、それは、本書にあるような単なる招へい事業だけでなく、横浜という地域の特性を生かした継続性のある文化事業を発信していくことであろう。

横浜の街をより魅力的にしていこうと試みとして、芸術的文化的に質の高いものを展開していく場は、新しい街をつくる際に、芸術的文化的活動ができる施設をあわせて整備することが必要

であることは言うまでもないが、既存の空間でもウォーターフロントを中心に横浜の蓄積として存在している。問題は、これらの既存の蓄積をソフト展開の場として活用していく視点を持てるかということである。その視点として重要なことは、都市の空間を二面性―産業活動の場として空間と日常生活の場として空間―だけでとらえるのではなく、これらの融合及び第三の空間としていけば「遊びの空間」という視点を持つことであろう。

ただ単にストリート・パフォーマンスがいるというだけでなく、街づくり全体の中にこんなソフト展開のできる空間という発想を持ち続けたいものである。

(市民局文化事業課堀江武史)